

みなさんの「地域づくり」の活動を応援します

第20回

FUTURE CREATION 2019

中部の未来創造大賞



第20回「中部の未来創造大賞」について

「中部の未来創造大賞」は、地域づくりのための活動を表彰し、新しい時代にふさわしい中部の発展と啓発を促進しようとするものです。第20回目にあたる今回は35件の応募をいただきました。表彰委員会による審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件のほか、第20回を記念して奨励賞6件が選考されました。本冊子は、これらの選考された活動の概要を紹介するものです。今後の地域づくりに広く役立てていただければ幸いです。

■受賞の対象

- ・受賞の対象は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県における社会資本整備及びその利用・保全に関する活動に顕著な貢献が認められるもの
- ・個人又は、団体(自治体、企業、NPO等)を対象

大賞



藤前干潟クリーン大作戦実行委員会(愛知県)



矢田・庄内川をきれいにする会(愛知県)



NPO法人 つくしん棒(岐阜県)



愛知県立木曾川高等学校 総合実務部(愛知県)



愛知県立高浜高等学校 地域活動部SBP班(愛知県)



一般社団法人 長久手みなみ里山クラブ(愛知県)



味噌人会(愛知県)



NPO法人 水辺の里まちづくりの会(静岡県)



富士山南陵の森フォレストセイバープロジェクト(静岡県)



杵原学校応援団(長野県)



NPO法人 活エネルギーアカデミー(岐阜県)



CONTENTS

第20回「中部の未来創造大賞」について	1
大賞	
「藤前干潟クリーン大作戦」 漂着ごみの生まれない土岐川・庄内川流域めざして 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会	3
優秀賞・中日新聞社賞 ※同時受賞	
八丁味噌を仕込んだ樽が岡崎固有の大太鼓に 「味噌六太鼓プロジェクト」 味噌人会	5
優秀賞	
産官民学が連携して進める 富士山南陵工業団地のコミュニティの森づくり 富士山南陵の森フォレストセイバープロジェクト	6
優秀賞	
高山木の駅プロジェクト・ 積みマイカー物流システム NPO法人 活エネルギーアカデミー	7
中部経済連合会賞	
「全国をSの絆で繋ぐSの絆焼」 私たちだけ良くなるのではなく、 みんなで一緒に笑顔になりたい 愛知県立高浜高等学校 地域活動部SBP班	8
奨励賞	
YUMEITAプロジェクト - 山づくり、人づくり NPO法人 つくしん棒	
廃校になった校舎を地域の交流と学びの拠点として活用 杵原学校応援団	
里山を通した「ひと」と「ひと」をつなぐ活動 一般社団法人 長久手みなみ里山クラブ	
庄内川水系にアユ遡上100万匹大作戦 矢田・庄内川をきれいにする会	
地域の宝 木曾川のイタセンバラの保護につながる活動 愛知県立木曾川高等学校 総合実務部	
自然環境の保全、景観の向上 NPO法人 水辺の里まちづくりの会	9
選考を終えて(表彰委員より)	10
これまでの主な受賞活動	11

「藤前干潟クリーン大作戦」 漂着ごみの生まれない土岐川・庄内川流域めざして



藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

〒452-0000 愛知県清須市西枇杷島町北枇杷池15-1 清須市庄内川水防センター内
TEL 090-8421-1037
URL <https://cleanupfujimae.jimdofree.com/>

藤前干潟クリーン大作戦の目標は

- ①ラムサール条約に恥じない藤前干潟
- ②子どもが安心して遊べる岸辺
- ③ごみと水を考えるネットワークの形成の実現です。

毎年春と秋の2回清掃活動を行い、干潟観察会、ヨシ植栽会、流域5地点の水質調査も行っています。また、土岐川・庄内川流域と伊勢湾を軸とした各地の市民団体との連携を進め、毎年1月に「ごみと水を考える集い」を開催しています。心掛けていることは、「安全第一」「流域一体」「伊勢湾ごみ流出防衛最前線の活動」「若者の参加」「子どもの笑顔」「協働」です。

「藤前干潟」は市民活動により「ごみ処分場計画」から守られ、2002年11月には「ラムサール条約登録湿地」となりましたが、岸辺には大量の石油由来生活ごみが漂着していました。

「何とかしよう」と2005年10月5日に4市民団体が実行委員会を結成し、同年10月24日に第1回大作戦を実施しました。以降、地元自治会、流域各地の方々、学生、企業、行政と協働して31回の大作戦を延べ37,770人の参加を得て実施しています。一昨年秋の二度の「高潮」により打ち上がった大量のペットボトル等を河川管理者と協働して「一掃」しました。

今、漂着ごみ問題は、河川、海洋に「マイクロプラスチック」が顕在化し、新たな段階を迎えています。これからも、自然豊かな川・海・岸辺を未来に引き継ぐために、仲間と知恵を絞り「漂着ごみの生まれない社会創り」めざし活動します。



中堤会場の作業風景 子どもも参加!



参加してくれた子どもの笑顔は最高!!



第30回記念19春の藤前干潟クリーン大作戦 中堤会場記念写真(2019.5.18)



第8回ごみと水を考える集い 河村名古屋市長の挨拶(2019.1.26)

八丁味噌を仕込んだ樽が岡崎固有の大太鼓に 「味噌六太鼓プロジェクト」



味噌人会(みそろくかい)

〒444-0072 愛知県岡崎市六供町杉本32番地2 株式会社三浦太鼓店内
TEL 0564-21-2271
URL <https://www.facebook.com/misorokukai/>

後世に受け継がれる新たな伝統と文化を創りたいとの思いから、平成29年、岡崎市が誇る伝統食である八丁味噌を130年以上醸(かも)した仕込み桶(おけ)を再利用し、直径六尺六寸(約2m)の大きな太鼓を作り、「味噌六太鼓」(みそろくだいこ)と命名しました。以後、毎年1台ずつ制作し、令和元年で3台目となります。

約半年間かけて、みんなで協力しながら味噌六太鼓を製作する過程は、世代や地域の枠を越えた交流の輪を広げ、人と人が協力し合い、繋がる喜びを育みます。また、籬(たが)編みなど桶づくりの基本となる伝統技術を身につけ、継承することができました。

さらに、徳川宗家の三つ葉葵の家紋を入れた味噌六太鼓を御輿台(みこしだい)に載せ、担ぎ上げ、踊り舞うことで、「泰平の世を築いた家康公生誕の地、岡崎」の伝統文化の新たな発展と、祭りの賑わいづくりに協力してきました。

平成30年、歴史と文化のまちづくりに寄与することを目的に、同じ志をもつ仲間が集まり、「味噌人会」(みそろくかい)が発足し、岡崎城下家康公夏まつりをはじめ、市内外の各種イベントや祭りに参画し、市民参加型のまつりづくりに取り組んでいます。

130年以上前に、桶を作った職人や八丁味噌を仕込んだ職人たちが、まさか桶が大太鼓に生まれ変わり、地域の賑わいをつくらうなど、想像できたでしょうか?この浪漫を胸に、味噌六太鼓で世界の平和(泰平の世)のために貢献していきます。



味噌六太鼓製作の様子



岡崎の新たな祭り文化「味噌六太鼓総担ぎ」

令和の日本!森林の恵みに育まれた暮らしをめざして! 高山木の駅プロジェクト・積まマイカー物流システム



NPO法人 活エネルギーアカデミー

〒506-8686 岐阜県高山市漆垣内町3180番地
TEL 090-3582-2283
URL <https://www.facebook.com/enepo.takayama/>

私たちの先輩たちは半世紀前、スギ・ヒノキ・カラマツの植林で緑いっぱいの山々にしましたが、その後、林業は儲からないというので手入れが滞り、里山が荒れてしまいました。

里山を元気にしようと平成26年3名から始めた木の駅プロジェクトの“結”仲間は、今では30歳から86歳まで93名に広がりました。

林業で一番費用がかかる材木の運搬が課題でしたが、市内の木の駅9カ所を高山市が毎週水曜日・木曜日に定期便トラック“積まマイカー”を走らせ、集荷します。

山から採れた材木は積まマイカーに載って市内のチップ、ペレット、薪などの加工所へ、その後これらは市内のホテル、温泉施設のボイラー燃料用・バイオマス発電用として、また小中学校のストーブ燃料として利用されます。こうして地産地消バイオマスエネルギーのサプライチェーンを形成しています。

さらに、山から木の駅まで搬出する付加価値分を地域通貨“enepo”で運用します。山仕事で手に入れたenepoは市内73店舗の地域通貨協賛店で使用され、金融機関窓口まで届きます。こうして付加価値の連鎖が循環し、積まマイカー物流システムが実現しています。

効果	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
搬出量	324本	1,296本	3,015本	5,900本	14,400本	19,200本
灯油換算	14.9kℓ	59.6kℓ	138.7kℓ	271.0kℓ	662.0kℓ	883.0kℓ
CO ₂	37 t	149 t	347 t	678 t	1,656 t	2,208 t



地域通貨 enepo(エネポ)

木の駅プロジェクトの“結”仲間

産官民学が連携して進める 富士山南陵工業団地のコミュニティの森づくり



富士山南陵の森フォレストセイバープロジェクト

〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野165
TEL 0544-66-0790
URL <http://fuji-nanryo.com/fspj.html>

富士山南陵の森フォレストセイバープロジェクト(略称FSPJ)は、工業団地の造成でいったん失われてしまった富士山南陵の森を、富士山の麓の森としてふさわしい環境林として復活させると共に、地域のさまざまな人々を繋ぐコミュニティの森として活用しながら、「森林を守り育てる人づくり」を目指して活動しています。

富士山南陵工業団地に進出した12企業が出資者となり、地域の環境NPOを核にして、地域の大学の協力を得ながら、富士宮市と協定を結び、活動を続け本年度で10年目を迎えました。

この間、進出企業の社員に参加を呼びかけ続けてきた企業の森づくり活動やセミナーの開催、地元住民を対象とした自然体験プログラムの実施、企業間及び企業と地元住民の交流を促す「FSPJまつり」の企画・運営、植生の回復状況のモニタリングやカヤネズミの生息状況の調査など、産官学民が連携して、さまざまな活動を展開しています。

この活動の特徴としては、「工業団地進出企業が、敷地内の緑化ではなく、工業団地周辺の大きくまとまった緑地を保全するために出資し、その緑地を保全する担い手になっている点」や「工業団地の造成の際に、将来の周辺緑地の森の姿を想定し、自然植生に倣った緑化手法が取り入れられており、その計画に沿った緑が復元されてきている点」等が挙げられます。

今後も、今回の受賞を励みとして、富士山南陵の森を守り育てる人づくりを産官民学の協働で進めてまいります。



南陵の森での自然体験プログラムの様子



工業団地進出企業の職員が進める森づくり活動

「全国をSの絆で繋ぐSの絆焼」

私たちだけ良くなるのではなく、みんなと一緒に笑顔になりたい



愛知県立高浜高等学校 地域活動部SBP班

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL 0566-52-1111
URL <http://takako.ed.jp/club/community/SBP.html>

愛知県立高浜高校地域活動部SBP班では、4年前から、オリジナルデザインが可能な焼き型「Sの絆焼き型」の製作・販売に取り組んでいます。この活動を始めたきっかけは、高浜市の産業を応援し、PRを行うことで自分たちの成長につなげたいと考えたからです。高浜市には、日本三大瓦のひとつである三州瓦の瓦産業と自動車産業があります。この2つの産業を組み合わせることで、「Sの絆焼き型」は、作られています。まず、お客様から依頼されたデザインを瓦職人（鬼師）が立体的な形にし、それを基に、自動車部品メーカーが金型を彫り込んで完成します。現在までに、青森県の3つの高校さんと高校生レストランで有名な三重県立相可高校さんに計7台販売してきました。さらに、今年、Bリーグ所属のプロバスケットボールチームである、シーホース三河さんの焼き型を製作しました。ホームゲームの際に、キャラクター焼きの販売を行い、その利益で地元の子どもたちをバスケット



Sの絆焼き型プレゼンの様子

ボールの試合に招待したいと考えています。また、現在、熊本県立天草拓心高校さんや企業さんへの販売も控えています。

私たちは、地元の発展だけでなく、他の地域も一緒に発展していくことを目指して活動しています。「Sの絆焼き」を通してたくさんの方々とながら、笑顔の輪を広げていきたいです。



シーホース三河さんの試合会場で販売している様子



奨励賞

活動名 ● YUMEITAプロジェクト – 山づくり、人づくり

受賞団体 ● NPO法人 つくしん棒

地域の間伐材を活用し、産・官・学・民が連携して間伐体験や間伐材を活用した学習機の保護天板(YUMEITA)を用いた環境教育を行っています。学習機の天板(YUMEITA)は小学校1年生の時に作成し、6年間使用した後、卒業の記念品として持ち帰ります。このように、環境教育と合わせて、木材を継続的に使い続ける仕組みのある活動を行っています。



活動名 ● 廃校になった校舎を地域の交流と学びの拠点として活用

受賞団体 ● 杵原学校応援団

廃校後に市の倉庫として使用されていた学校を、「地域の交流と学びの場」として利用することを市に申し入れ、市の支援を受けながら再整備と利活用を始めました。校舎は映画のロケ地になるなどして注目を集めており、校舎での体験授業、農業体験、フォトコンテスト、お祭りなどのイベント開催など、多岐に渡る活動を行っています。



活動名 ● 里山を通した「ひと」と「ひと」をつなぐ活動

受賞団体 ● 一般社団法人 長久手みなみ里山クラブ

古くからこのまちにある里山を、住民の方々と一緒になり、里山を守るための「緑地の維持管理活動」、里山の自然の魅力を満喫し自然の楽しさを感じることができる「里山保全活動」、貴重な生き物やホタルが生息することができる環境作りとなる「生物保護活動」に関する事業を行い、里山と住民が共生できるまちを目指して活動を行っています。



活動名 ● 庄内川水系にアユ遡上100万匹大作戦

受賞団体 ● 矢田・庄内川をきれいにする会

天然アユが生息する河川環境の復活を通じて、きれいな川を取り戻し、それを次世代に引き継ぐことを目的に、稚アユの遡上調査、友釣り調査(釣り大会)などを実施し、また、産卵場造成実験、魚道の効果測定調査、アユの食味調査を実施しています。魚道整備時には行政と連携して、設計段階から協議・助言を行い、設置後のモニタリング調査にも協力しています。



活動名 ● 地域の宝 木曾川のイタセンパラの保護につながる活動

受賞団体 ● 愛知県立木曾川高等学校 総合実務部

かつては濃尾平野の河川やため池など、どこにでもいたイタセンパラ(絶滅危惧IA類)を守るために、認知度を高めることを目的にしたアンケート活動、河川敷のパトロール、木曾川ワンドの保全活動などを実施しています。また、官が主催する調査や学習会への参加や、地元の保護団体と連携した研究発表会へ参加し、認知度向上と保全に努めています。



活動名 ● 自然環境の保全、景観の向上

受賞団体 ● NPO法人 水辺の里まちづくりの会

天竜川の河川敷の広大なエリアを管理・保全し、その場所を中心に地域に環境保全、景観向上の意識を根付かせる活動をしています。幅広い分野と連携した活動を行っており、環境教育の他にスポーツ大会やドローン操作訓練場などを目的にした利用も多くあります。また、クラウドファンディングによる財源確保や活動内容をSDGsに位置づけるなど、先進的な活動も積極的に行っています。



選考を終えて (表彰委員より)

委員長

名古屋工業大学名誉教授

山本 幸司 やまもと こうし

この表彰制度が20周年を迎えたことを記念し、従来の3賞に加えて奨励賞を設けました。応募頂いた35件は活発かつ特徴ある活動が多かったことに感銘しました。厳正なる選考を経て顕彰の栄に浴される団体のみならず、中部の未来づくりに関わるすべての団体のご活躍を期待いたします。

副委員長

三重大学名誉教授

渡邊 悌爾 わたなべ ていじ

表彰制度開始から20年目の今回は、応募も増え、幅広い分野で地域社会に貢献される活動が見られ活動される諸団体に敬意を表したい。大賞の藤前干潟のクリーン大作戦は、上下流間で連携を図り継続、発展させている上でも特筆すべきものがあった。

委員

駿府静岡歴史楽会事務局代表

竹内 礼子 たけうち れいこ

20回を迎えたこの賞で、当初は活動している人たちの汗と涙に感動しました。やがて楽しんで活動している笑顔が見られるようになり、この頃は自らは表には出ずに、まちな人や子どもたちを支えていく姿が印象に残るようになりました。



委員

名古屋大学大学院准教授

小松 尚 こまつ ひさし

取り組み自体やその成果とともに、活動が長期にわたる団体も多いため、継続のための手立てや工夫に感心することが少なくありませんでした。受賞団体には、受賞は一通過点として、さらなる発展とあらたな展開を期待しております。

委員

中日新聞社事業局長

長坂 誠 ながさか まこと

応募頂いた活動はいずれも、地元の伝統や自然、そこに暮らす人たちの絆を守り、将来に向けて継承、発展させる意欲にあふれていました。郷土愛にとってもは凡庸ですが、地に足の着いた取り組みの数々に心動かされました。

委員

(一社)中部経済連合会常務理事

栗原 大介 くりはら だいすけ

毎年、多様化する活動内容と活動主体に感銘を受けております。今回は経済界との連携した取り組みも見受けられました。また、大規模かつ長期間の活動も増えてきています。今後、皆様の更なるご活躍と地域の益々の発展を祈願いたします。

委員

中部地方整備局企画部長

福田 敬大 ふくだ ゆきひろ

今回、皆様から多くの応募をいただき、地元と協働した環境・防災活動や地域資源を発掘・活用した地域活性化など、記念すべき第20回にふさわしい活動と感じました。本賞を通じて優れた地域づくり等の活動が広まり、ますます発展いたしますことを心より祈念いたします。

中部の未来創造大賞推進協議会

国土交通省中部地方整備局

中日本高速道路株式会社 名古屋支社

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 中部支部

長野県

名古屋高速道路公社

一般社団法人
長野県建設業協会

岐阜県

独立行政法人
水資源機構 中部支社

一般社団法人
岐阜県建設業協会

静岡県

地方共同法人
日本下水道事業団 東海総合事務所

一般社団法人
静岡県建設業協会

愛知県

独立行政法人
都市再生機構 中部支社

一般社団法人
愛知県建設業協会

三重県

公益社団法人
土木学会 中部支部

一般社団法人
三重県建設業協会

静岡市

一般社団法人
中部地域づくり協会

株式会社中日新聞社

浜松市

一般社団法人
日本建設業連合会 中部支部

後援／一般社団法人
中部経済連合会

名古屋市

中部の未来創造大賞では次のような活動を表彰しています。

1. 住民、企業・学校、行政等が工夫して取り組んでいる地域づくりの活動で、以下に該当するもの

- 生活・自然環境の保全を行っているもの
- 景観の向上を行っているもの
- 観光資源として活用しているもの
- 地域づくりに関連した情報発信を行っているもの
- 資源の再利用を行っているもの
- 公共施設の整備にあたって、コスト縮減等に有効な新技術、新工法の研究開発を行っているもの

2. 災害時の人命救助、復旧活動や防災に関する活動

3. 伝統的な建造物の保存、復興等を行っている活動

第21回「中部の未来創造大賞」の募集予定

■募集期間(予定)

令和2年5月下旬～8月末 (詳細は、募集開始時にホームページに掲載します。)

■応募条件

- 長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県内における活動を対象とします。
- 自らが参加している活動であり、特許・著作権またはプライバシー等の権利を侵害しないものに限りです。
- 資格、年齢等は問いません。
- 再応募ができます。(但し、これまでの「中部の未来創造大賞」にて大賞を受賞された活動は除きます)

■選考について(予定)

学識経験者等からなる表彰委員会により選考します。必要に応じて現地調査、面談等を行います。

■賞(予定)

○大賞・・・1件[賞状、盾、賞金10万円] ○優秀賞・・・3件程度[賞状、賞金5万円] ○特別賞・・・中部経済連合会賞、中日新聞社賞 他

5月下旬
募集開始

8月末
募集締切

9月～10月
事前審査

11月～1月
現地調査

1月～2月
表彰式

※受賞後3年間は受賞活動の後援、推薦(他機関が募集する賞や助成への推薦)を行います。(協議会への申請と確認が必要です。)

※個人情報等については、当協議会が行う中部の未来創造大賞以外には使用いたしません。受賞された応募案件につきましてはホームページ・パンフレット等で、団体名、住所、電話番号、FAX、URLを公開いたします。前述をご了承の上、ご応募下さい。

●これまでの主な受賞活動

第19回 大賞(平成30年度)

地域の大切な自然や環境を守る
「地球にやさしいエンジニア」

静岡県立浜松城北工業高等学校・環境部



第18回 大賞(平成29年度)

地域を守るのは ぼくらだ!
～学校・地域・関係機関が連携した防災活動～

岡崎市立常磐東小学校



第17回 大賞(平成28年度)

「地域のデザイン」を、住民自治で!

美麻地域づくり会議



FUTURE CREATION 2019

中部の未来創造大賞

主催/中部の未来創造大賞推進協議会

中部の未来創造大賞

で 検索

中部の未来創造大賞推進協議会事務局

国土交通省 中部地方整備局 企画部 企画課 — TEL(052)953-8127

一般社団法人 中部地域づくり協会 業務管理部 — TEL(052)962-9455

URL <http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/mirai/index.htm>

